

日本簿記学会ニュース

No. 47:7 / 2009

《部会・大会の経過報告》

第25回関東西部会は平成21年5月30日(土)に九州大学(準備委員長:岩崎勇氏)にて、第25回関東部会は平成21年6月20日(土)横浜市立横浜商業高等学校(準備委員長:粕谷和生氏)にて、各々開催されました。詳しい内容は本紙部会記をご覧ください。(関東部会記は次号掲載予定です)

《全国大会のご案内》

第25回全国大会を下記の予定で開催いたしますので、お知らせいたします。

2009年8月25日(火)～8月27日(木)

東京経済大学国分寺キャンパス

第1日 8月25日(火)

学会賞審査委員会

理事会

第2日 8月26日(水)

参加者受付 11:30～17:40(2号館1階正面玄関ロビー)

会員総会 12:30～13:30(2号館3階B301教室)

学会賞受賞報告 13:35～13:55(2号館3階B301教室)

中野常男氏(神戸大学) 編著

『複式簿記の構造と機能—過去・現在・未来—』同文館出版

司会:新田忠誓氏(埼玉学園大学)

研究部会報告 14:00～15:10(2号館3階B301教室)

司会:古賀智敏氏(神戸大学)

(1) 簿記理論研究部会

部会長:河 照行氏(甲南大学)

「情報技術の発展と簿記理論の変容に関する研究」

(2) 簿記教育研究部会

部会長:上野清貴氏(中央大学)

「『教養としての簿記』に関する研究」

(3) 簿記実務研究部会

部会長:菊谷正人氏(法政大学)

「新会計基準における勘定科目の研究」

統一論題報告 15:30～17:40(2号館3階B301教室)

テーマ:「複式簿記『再考』」

司会:方 久氏(西南学院大学)

(1) 戸田龍介氏(神奈川大学)

「利益の信頼性と複式簿記」

(2) 工藤栄一郎氏(熊本学園大学)

「会計記録の本質とその後退」

(3) 佐藤信彦氏(明治大学)

「勘定残高と財務諸表表示—対照勘定及び評価勘定と相殺表示を中心にして—」

(4) 松本敏史氏(同志社大学)

「対照勘定段階的取崩論」

懇親会 18:10～19:40(6号館7階大会議室)

第3日 8月27日(木)

参加者受付 9:10～16:00(2号館1階正面玄関ロビー)

自由論題報告 9:30～12:00

(休憩 10:40～10:50)

第1会場 (2号館3階B302教室)

司会:梅原秀継氏(中央大学)

(1) 津村怜花氏(神戸大学大学院生)

「『馬耳蘇氏記簿法』および『馬耳蘇氏複式記簿法』の一考察」

(2) 町田耕一氏(国土館大学)

「活動基準原価計算の勘定システム」

(3) 山本 巖氏(公認会計士)

「複式簿記と勘定科目」

第2会場 (2号館2階B206教室)

司会:高須教夫氏(兵庫県立大学)

(1) 浅野千鶴氏(明治大学)

「収益認識の新たなアプローチにおける諸問題」

(2) 西館 司氏(三重中京大学)

「2つの対立的な勘定理論とIASB/FASB収益認識の利益観—ヒューダリ学説とスガチーニ学説の比較—」

(3) 神納樹史氏(新潟大学)

「連結損益計算書の考察—Childs学説を拠り所として—」

第3会場 (2号館2階B201教室)

司会:大塚成男氏(千葉大学)

(1) 中川貴己氏(新生信託銀行・中央大学大学院生)

「金融機関における無形資産会計」

(2) 渡部浩一氏(川口高等学校)

「企業ポイントに関する一考察—取引の二面性を手掛かりとして—」

(休憩 10:40～10:50)

司会:田中建二氏(明治大学)

(3) 今村 猛氏(公認会計士)

「資産の定義と認識についての一試案」

(4) 吉岡正道氏(東京理科大学)

岩 篤志氏(東京理科大学大学院生)

末原 聡氏(東京理科大学大学院生)

「剰余金の配当規制について」

記念講演 13:00～13:50(2号館3階B301教室)

井尻雄士氏(カーネギーメロン大学)

「複式簿記の優美と不況経済の恐怖」

司会:伊藤邦雄氏(一橋大学)

統一論題討論 14:00～16:00(2号館3階B301教室)

座 長:方 久氏(西南学院大学)

報告者:

戸田龍介氏(神奈川大学)

工藤栄一郎氏(熊本学園大学)

佐藤信彦氏(明治大学)

松本敏史氏(同志社大学)

会員控室:2号館1階B101教室

日本簿記学会第25回全国大会準備委員会

委員長 久木田重和

本大会のプログラムは、日本公認会計士協会の「CPE認定研修」として承認されております。

日本簿記学会第 25 回関西部会記

準備委員長 岩崎 勇
九州大学大学院

日本簿記学会第 25 回関西部会は、2009 年 5 月 30 日（土）に九州大学経済学部箱崎キャンパスにて開催された。本大会は、会計基準の国際的なコンバージェンスやアドプションが急速に進展する中において、複式簿記の意義をもう一度深く掘り下げて検討することを目的として「現代会計と複式簿記」という統一論題の下で開催された。

新型インフルエンザの急速な国内での感染が広がる中、学校閉鎖による大会延期を心配したが、無事開催され、100 名を超える会員の参加を得て盛会となり、会場は熱気に溢れていた。

午前中（11 時から）に理事会が開催され、役員等の役割分担、日本簿記学会年報、会員の異動、前理事会からの申し送り事項などについて審議がなされた。

また、次のような自由論題報告が、2 会場でなされた。

第 1 会場では、梶田龍三氏（大分大学）の司会により、①赤城論士氏（九州産業大学）「純資産の部の導入による簿記への影響」及び②草野真樹氏（京都大学）「金融負債の公正価値測定と信用状態の変化」、第 2 会場では、清村英之氏（沖縄国際大学）の司会により、①野口倫央氏（愛知学院大学大学院生）「研究開発原価の特別勘定累積処理に関する検討」及び②小形健介氏（長崎県立大学）「わが国の企業結合会計・連結会計の基準改定における連続性 / 非連続性」という報告がなされ、活発な質疑応答がなされた。

そして、午後においては、12 時 30 分から準備委員長岩崎勇氏（九州大学）の挨拶に続き、座長の藤井秀樹氏（京都大学）による統一論題「現代会計と複式簿記」についての簡単な趣旨説明が行われ、①角ヶ谷典幸氏（九州大学）「現在価値会計と複式簿記」、②浦崎直浩氏（近畿大学）「公正価値会計における記録の意味」、③福浦幾巳氏（西南学院大学）「時価会計における課税所得計算の論理」、④松本敏史氏（同志社大学）「原価主義会計の観点からの収益認識と複式簿記」という 4 名のよく準備された統一論題に関する報告が行われた。

これらの統一論題報告者に対して山下寿文氏（佐賀

大学）と高須教夫氏（兵庫県立大学）から鋭いコメントがなされた。

引き続き、統一論題討論会が行われ、梶田龍三氏（大分大学）、草野真樹氏（京都大学）、齊野純子氏（甲南大学）、古田美保氏（甲南大学）から報告者に対して質問がなされ、座長のコーディネートの下、活発な議論がなされた。この統一論題の報告と討論により現在の会計基準のコンバージェンスやアドプションが進展する中において、時代のニーズを取り入れ、その形態を少しずつ変えながらも、複式簿記は重要な役割を果たし続けるであろうことが確認された。

そして、会場を福岡ガーデン・パレスに移して、懇親会が行われ、多くの会員が参加し、報告等についての話題に花を咲かせた。



定年退職後の日々

日本簿記学会前会長
明治大学名誉教授 森川 八洲 男

2年前の3月末日に満70歳で定年退職を迎えた。その頃、友人達からは、「退職後は『毎日が日曜日』』というような状態に近い日々が続く、とかく家の中にひきこもりがちになるから、できるだけ外出するように心掛けたほうがいいですよ」という旨のアドバイスをししばしばいただいた。そのようなアドバイスは有難いと思いつつも、在職中が多忙であったためか、退職後はのんびりとした日々を過ごしたいという気持ちも強かった。このように自分自身の気持は交錯したが、そのような中で、現在のところでは、次のような2つの事柄を軸にした生活のパターンが定着している。

そのひとつは、某大学で週一回「国際会計論」という科目を担当していることである。これについて、退職後まもない頃に、学会の先輩であるU先生から、「ある大学で『国際会計論』という新設の科目(3年次・4年次配当)を非常勤講師として担当してくれませんか、ボケ防止になりますよ」というお誘いを受けた。年齢のことを考えると、多少のためらいはあったが、私自身、日頃から、各国の企業会計制度についての比較研究、会計基準の国際的調和化、さらには会計基準のコンバージェンスの進展など、国際会計論をめぐる主要な課題に関心を持っていたこともあって、2年の予定でお引き受けすることにした。

講義に際しては、毎時間パワーポイントを利用して講義資料を用意するなど、それなりに苦労もあるが、受講生がかなり興味を持って聴講してくれることもあって、私自身は比較的楽しく講義を続けている。そして、そのような講義資料の準備などの地道な作業を続けてきた成果として、「国際会計論」の講義録が出来上りつつある。近くこれを整理して、「国際会計論」のテキストをまとめたいと思っている。もしそれが実現すれば定年退職後の生活の中から生み出された具体的な成果として素直に喜びたい。

それ以上に、定年退職後の仕事として、私自身が

重視しているのは、在職中から続けてきた、大学院の私の研究室出身者で、現在各大学の教員として活躍している人達との研究会である。これは、在職中と同様に、毎週金曜日の午後4時過ぎから約2時間行われている。研究会の常連は、世話役の佐藤信彦君(明大会計大学院)をはじめ、松井泰則君(立教大学)、倉田幸路君(立教大学)、菱山淳君(専修大学)、渡辺貴士君(亜細亜大学短期大学部)、小松義明君(大東文化大学)、徳山英邦君(西武文理大学)、渡辺雅雄君(明大会計大学院)、梅原秀継君(中央大学)、青木孝暢君(LEC大学)などである。さらに赤城論士君(九州産業大学)も連休などを利用して遠路かけつけてくる。研究会では、あらかじめ予定された報告者が日頃研究している課題について約50分程度報告を行った後に、それをめぐって質疑応答を含めて議論を行い、最後に座長がそれを総括して締めくくることになる。そして、参加者は、そのような研究報告とそれをめぐる議論を通して、お互いに啓発され、レベル・アップすることが期待されるのである。

もちろん、私自身も研究会に積極的に参加し、研究報告を行っている。ゼミナールの記念論文集として発行が企画されている書物のテーマである「企業会計原則の再検討」について報告したのをはじめ、すぐれて今日的な課題である「会計基準のコンバージェンス——日本とEUの取り組み」という課題について数回にわたり報告し、参加者から批評を受けた。この後者は、過日立教大学で開催された2008年度の日本会計研究学会全国大会における記念講演での報告の土台となったものとして私の思い出に残るものである。定年退職後は、時間的には研究に専念できる余裕はできたものの、とかく怠惰な生活に陥らないようにするためにも、研究会に従来以上に関心を持ち続けたいと思っている。そのためにも、研究会が今後ますます活発に行われることを願ってやまない。

《武田隆二先生を偲んで》

日本簿記学会副会長
近畿大学教授 浦崎直浩

日本簿記学会第3代会長で顧問の武田隆二先生が2009年2月15日に御逝去されました。享年77歳でした。武田隆二先生は日本簿記学会設立の発起人として尽力され、会長時代には会長選挙規程の改定や学会誌の誌面刷新など様々な改革を通じて多大な功績を残されました。御遺稿となった「企業会計基準の改訂への提言」(『税経通信』2009年1月号)では、21世紀における企業会計のグランドデザインが提言され、複式簿記を想定した適時・正確な帳簿の作成の重要性が示唆されています。意思決定有用性を主眼とする機能主義的アプローチは、測定科学としての会計学の本旨に沿ったものではなく、精緻な会計

学の理論構築は望めないことが明らかとなったとして、金融財と有形財のそれぞれの属性を考慮した会計基準の開発、国内と国際という場の条件に応じた会計基準の適用、会社規模・事業内容等に即した種別会計基準の設定の必要性を説かれておられます。また、記帳業務の適正性や正確性を確保するための要件として、アカウンタントの倫理的側面を研究することの意義を説かれておられた先生から、簿記教育研究部会「簿記教育と倫理のフレームワークに関する研究」の最終報告(2008年8月、第24回全国大会・香川大学)についてコメントをいただいたことが最後の思い出となりました。今後とも日本簿記学会の運営を通じて、先生の思いに報いたいと念じております。

《新井益太郎先生のご逝去を悼む》

成蹊大学名誉教授 松葉邦敏

日本簿記学会の初代会長であられた新井益太郎先生が去る4月12日にご逝去された。誠に痛恨の極みである。先生とは成蹊大学及び産業経理協会等通算40年余り公私にわたってご指導をいただきました。特に日本簿記学会設立時や第1回全国大会が成蹊大学で開催するにあたっての準備作業等昨日のように思い出されます。先生は昭和60年から平成2年まで2期6年間にわたって会長を務められました。その間、学会の組織、運営方針や財政基盤の充実等に尽力されました。会員獲得にも力を入れ、その結果、設立時の会員数が約450名であったが、退任する6年後には約2倍の800余名の会員数となっ

た。学会の運営にあたっては、全国大会のほか関東・関西部会が毎年開催され、簿記理論・簿記教育・簿記実務の3部会が設けられ、さらに会報・学会ニュースの刊行等、名実ともに学会としての地位を確立する基礎固めをなされました。この基本方針は、20年余りを経た今日においても踏襲されております。

最後に、先生の会長辞任の辞の一部を再掲し、会員の皆様と共にご冥福を祈ります。

「資本主義のもっとも信頼すべきツールとしての期待を担い、これに答えてきた簿記である。簿記・記帳の機械化が進む現在であっても、簿記のもつ重要性は無視できない。」

事務局からのお知らせ

《事務局への問い合わせについて》

事務局への問い合わせについては、連絡事務局にお願いいたします。

《お詫びと訂正》

本紙No.46:12/2008において平成20・21年度簿記教育研究部会「『教養としての簿記』に関する研究」部会長上野清貴氏(中央大学)に、池田幸典氏(高崎経済大学)が掲載されておりますが、委員ではあ

りませんでした。ここにお詫び申し上げるとともに訂正させていただきます。

発行所
編集兼
発行人

日本簿記学会事務局

連絡事務所

〒101-0021 東京都千代田区外神田5-1-15
株式会社白桃書房
e-mail boki@hakutou.co.jp